

食料経済学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 菊地昌弥・上岡美保

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

経済のグローバル化が進行している中でフードシステムや我々の食生活は大きく変化してきた。先進国を中心に農産物や食品の貿易が拡大し、消費者と生産者との間の空間的距離や社会的隔絶は大きくなっている。それとともに、伝統的な食生活からアグリビジネスや外食企業などが提案する食生活に変化した。その結果、健康問題、地域格差、安全性、食文化の喪失、食習慣の乱れなど、数々の問題に直面している。本演習ではこのような課題に対して主に経済学的・フードシステム論的観点から受講生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

食料問題	食品流通	フードシステム	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	食品安全	食育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	本講義の視点 (第 1~2 週)	・ フードシステムやマーケティングの視点を習得	本講義では特にフードシステム論的視点に立ち、関係する主体およびフードシステムに影響を与える政策等の外部環境に焦点を当て、変化の実態とその背景を理解することに重点をおく。このような意識の下で事前に関連する本に目を通していただきたい。
2	農業貿易交渉の変遷 (第 3~4 週)	・ 国際的枠組みの進展と日本農業を取り巻く環境の変化	
3	多国籍企業の支配 (第 5 週)	・ 農業貿易交渉の展開と多国籍企業の台頭の関係	
4	農産物輸入の増加 (第 6 ~7 週)	・ 1980 年代中頃以降の急増の背景	
5	農産物流通構造 (第 8~9 週)	・ 輸入農産物急増等を背景とした流通構造の変化	
6	食料消費の変遷 (第 10 週)	・ 内食、中食、外食の概念整理と国民の食料消費形態の変化	
7	外食産業の動向 (第 11 ~12 週)	・ 外食産業の発展の要因と今日の成熟化の背景	
8	食料品小売業の動向 (第 13 週)	・ 食料品小売業者の大型化とバイイングパワーの強化	
9	食品安全問題 (第 14~15 週)	・ BSE、残留農薬問題、偽装事件の発生と背景	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

『フードシステム学の理論と体系』/高橋正郎監修、高橋正郎・斎藤修編/農林統計協会/ (2002 年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

『東アジアフードシステム圏の成立条件』/斎藤修・下渡敏治・中嶋康博編/農林統計出版/ (2012 年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート (30%), 課題のプレゼンテーション (20%), 授業中のディスカッション (25%), 授業中の演習 (25%)

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、受講者の興味・関心に応じて一部変更する可能性がある。